

大学の世界展開力強化事業 取組概要 政策研究大学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

求められるグローバル人材像として科学的合理性に裏付けられた現実的課題解決能力を涵養したうえで、こうした判断基準と信頼を共有する者同士の強固な人的ネットワークの形成を促す。これにより、日中韓の社会的中核機関の組織的な政策立案・管理運営能力を高度化し、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDIスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈CAMPUS Asia Fortnight (サマープログラム)での集合写真〉

○ 指導体制の強化

キャンパス・アジアの円滑な運営と適切な事業執行のため、4月に組織管理や対外交渉の経験豊富な職員を採用した。また、キャンパス・アジアの円滑な運営及び学生支援の為に、研究助手を募集した。博士号を保有し英語や韓国語によるコミュニケーション能力を持つ等、必要なスキル・技術の点から採用を決定し、7月から着任となった。

○ 学生交流の促進のためのサマー・プログラム・短期研修の開催

本学の日本人学生を含め、本コンソーシアム参加3大学の学生の多くは政府機関等から出向してきているミッドキャリア職員であり、在籍中の時間的余裕が少ない。こうした期間制約の厳しい学生が参加しやすい行事として、キャンパス・アジアの枠組を最大限に活用し、夏学期のCAMPUS Asia Fortnight(サマープログラム)や3日間程度の短期研修を企画・開催した。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈KDIスクールでのPh.Dセミナーの様子〉

○ **CAMPUS Asia Fortnight(サマープログラム)をGRIPSで開催**(平成25年8月12日～22日)
KDIスクールと清華大学の学生を受け入れ、本学の夏学期の通常講義(FDI)の受講、特別講義(7コマ)の聴講、フィールドトリップ(日銀・日本工営)、レセプションを開催(韓:9名、中5名)

○ **清華大学での短期研修に本学学生を派遣**(平成25年10月29日～11月1日)
清華大学の通常講義(3コマ)を聴講したほか、学生交流会に参加(日:8名)

○ **CAMPUS Asia学生国内フィールドトリップを開催**(平成26年1月31日～2月1日)
CAMPUS Asia学生と本学の日本人学生の交流を深めるために、山梨県及び静岡県へのフィールドトリップを実施。山梨県では山梨県観光課にて観光施策についてヒアリング後、観光農園を訪問。静岡県ではヤクルト工場の見学を実施。(キャンパスアジア:5名、日:5名)

○ **ジョイント・セミナーをKDIスクールで開催**(平成26年3月16日～19日)

両学のPh.D学生5名(KDIスクール2名、GRIPS3名)が自身の研究について発表をするPh.D.セミナー、KDIスクールの通常講義の聴講、特別講義の聴講、KDIスクールの学生と親睦を深める交流会などを開催。(キャンパスアジア:4名、日:3名、博士:5名)

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

KDIスクールサマープログラム及びKDIスクール・清華大学で開催された短期研修へ派遣

○ 外国人留学生の受入れ

ダブルディグリー及び博士課程学生(特別研究学生)の受入れ他、本学で開催したCAMPUS Asia Fortnight(サマープログラム)への受入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K0	C0, K23	C8, K12	C10, K10	C10, K10
中国(C)での受入	J7, K1	J11, K3	J8, K6	J10, K5	J10, K5
韓国(K)での受入	J9, C0	J20, C0	J16, C4	J10, C5	J10, C5

注)H23～H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ MOUの改正

学生交流の機会を広げるため、MOUを改訂した。改訂前は、母校にて最低1学期間を修了しなければ留学できなかったが、この条項を削除した。また、ダブルディグリー以外の留学期間の上限を6か月間から12か月間に延長した。

○ 単位互換申請手続きの改定

単位互換申請の手順を明確にした。また、他大学で修得した単位を本学で互換できない場合の措置として、学生の希望により、成績表への欄外記載ができるようにした。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページやメディア媒体を利用したプロモーション活動

ホームページを見やすく魅力的なものとするため、改修作業を実施。募集の告知や、終了したイベントについても参加者の声や写真を多数掲載し、多くの学生の関心を惹きその参加意欲を高める内容となった。

また、進研アド『大学院へ行こう』のウェブページにも、参加学生のインタビュー記事などを掲載し、学生の出向元機関も含め幅広く本事業のねらいや成果が伝わるようなプロモーション活動を行った。『国際開発ジャーナル』にも記事を掲載し、本学のキャンパス・アジアプログラムの魅力を広く普及させるべく取り組んだ。